

### 【全体概要】

本県の稲WCS用主要品種「たちすずか」は、高品質な稲WCS生産が期待できる茎葉多収タイプの品種で、畜産農家から高い評価を受けている。しかし、本品種はイネ縞葉枯病に罹病性であるため、近年、被害が増加傾向にある本病に抵抗性をもつ新品種「つきすずか」の栽培を希望する動きが出てきた。そこで、「つきすずか」の特性把握と安定栽培方法を確立し、導入を図る。

### 新品種・新技術等の概要

稲発酵粗飼料用稲品種「つきすずか」は農研機構西日本農業研究センターで育成され、平成28年に出願公表された。

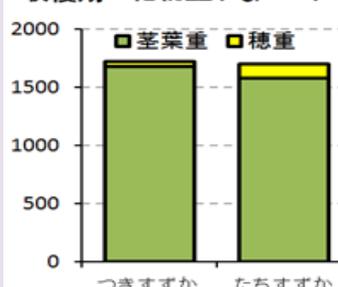
#### ● 品種特性

出穂期は「たちすずか」並の極晩生品種で、稈長は極長く穂数は少ない茎葉型の草姿である。イネ縞葉枯病抵抗性で、黄熟期の乾物重は「たちすずか」並で、籾重割合は「たちすずか」より少ない2.8%程度である(右図)。また、黄熟期の稲体糖含有率は「たちすずか」よりやや高い。

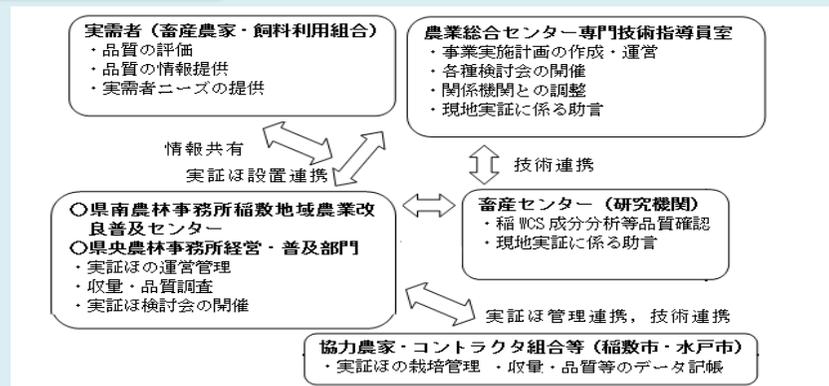


「つきすずか」黄熟期

収穫期の乾物量(kg/10a)



### 実施体制図



### 実績と今後の展開

#### ● 実績

- 「つきすずか」の単収は、「たちすずか」と同程度の3.0～3.4t/10aとなった。イネ縞葉枯病の被害は見られず、稲WCSの発酵品質は優れた。
- 栽培暦・マニュアルを作成し、生産者へ周知した。  
栽培面積 0a(H29) → 11ha(H30) → 28ha(R1)

#### ● 今後の展開

- 畜産農家による評価の高い「つきすずか」の作付を推進する。
- 栽培暦等を活用した栽培管理の徹底による品質を向上する。
- 畜産農家と耕種農家との意見交換の継続によるマッチングと利用促進により、栽培面積を拡大する。

### 主な取組内容

- 実証圃の設置による品種・収量特性の把握
- 多肥栽培試験による収量向上
- 生産者、実需者及び関係機関による現地検討会、情報交換会の開催
- 稲WCSの品質評価
- 栽培暦の作成および普及拡大の推進



耕種・畜産農家現地検討会